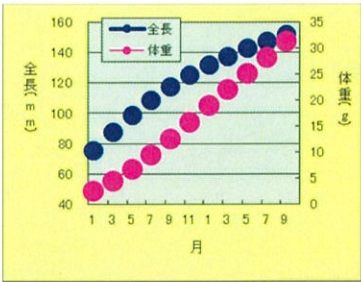


アオメエソ属 (地方名：メヒカリ)



生態

- 年齢・成長：常磐海域で漁獲されるアオメエソ属の仔魚は日本列島の南西から黒潮により輸送されと考えられています。本県沿岸には1月頃に生後150日程度、全長8cm前後で来遊します。6月に全長10cm程度で1歳魚、翌年6月に全長14cm程度で2歳魚となり、その後漁場から散逸します。
- 成熟・産卵：産卵期は2～7月、産卵場は日本列島の南西にあると推測されています。成熟年齢は不明です。本県では成熟個体は確認されていません。
- 分布・移動：0歳魚は水深150～450mの広範囲に分布しますが、成長に伴い水温の高い水深150～250mに移動します。この群は来遊翌年の秋以降漁獲されなくなるため、本県海域を索餌場として利用していると考えられます。
- 食性：胃内容物はオキアミ類が主体であり、端脚類、小型の魚類も混じります。



漁獲の動向

アオメエソは相双、いわき地区のそれぞれで漁獲されます。県全体では、平成12年以降震災前まで、漁獲量は160～590トン、漁獲金額は120～250百万円で推移していました。震災後、平成24年から操業が再開され、令和4年の漁獲量は80トン、漁獲金額は47百万円であり、震災前（平成22年）に対する割合はそれぞれ51%、34%でした。本種は来遊資源であり、その年の来遊状況により漁獲量が大きく変動します。

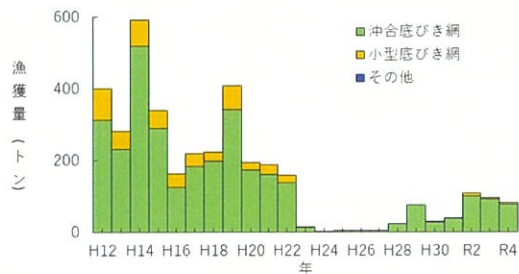


図1 アオメエソの年別漁業種別漁獲量

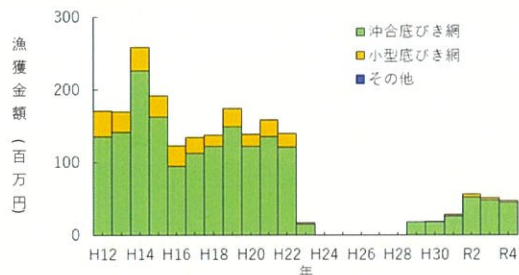


図2 アオメエソの年別漁業種別漁獲金額

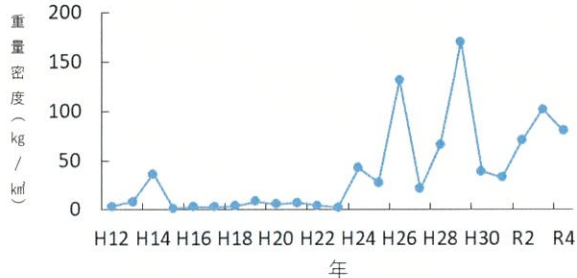


図3 調査船調査におけるアオメエソの重量密度

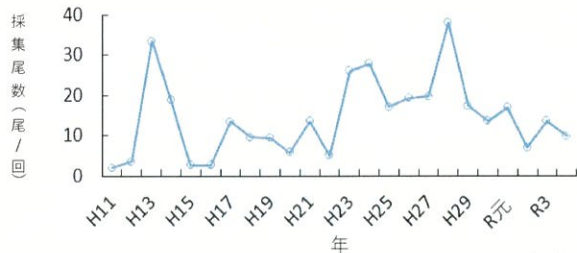


図4 調査船調査におけるアオメエソの小型個体 (全長10cm未満) の平均採集量

資源の状態

調査船調査の結果では、重量密度は高い傾向にあります。年変動があります。また、近年小型個体の採集量が比較的低水準で推移しています。

資源の水準：高位

資源の動向：一

現在実施されている管理策

特にありません。

今後考えられる管理策

経済的に有効活用するため、大型化したものを漁獲することが必要と考えられます。